

JUNO FOR WEDDING GUESTS

ご列席衣裳カタログ





20-4711



20-4668



20-4633



20-3821

美しい立ち姿

お仲人婦人や新郎新婦のお母様は、特にお客様のお迎えや披露宴のフィナーレなど、立ち姿となる場面が多く皆様の視線を浴びる立場上、特に注意してほしいのが立ち姿です。足元をイの字にそろえ、前に出した足の先に重心を移し、おなかをひっこめるように立つのが最も美しい留袖の立ち方です。



椅子に座る

椅子には浅く腰を掛けて、必ず背筋を伸ばし、椅子とひざの間をこぶし分くらいあけるのがポイントです。前幅がつまりすぎず、きれいに決まります。写真撮影など椅子への座りポーズの際はぜひ実践して欲しいものです。

車の乗り降りは優雅に

車に乗るときは袂に気をつけて、上前を持ち上げて頭から車内に入り、いったん腰をおろします。そして、そのまま足を揃え両足を一度に車内に入れるようにします。車内ではお太鼓の形がつぶされないように、シートにはもたれかけないようにします。降りるときは、乗るとき逆の順序で行くとスムーズに降車できるでしょう。

階段の昇り降り

どうしても足元が気になる階段の昇り降りを優雅にするコツは、つま先から、足を斜めに運ぶことが大事です。ただし、足元ばかりに気をとられて前かがみにならないように、また裾をよごさないように、右手でおはしよりの前右下と下前身ごろを同時に軽く持ち上げると一層品高く、美しく立居振舞えるでしょう。



末広の美しい持ち方

末広は根元の方を右で持ち、左手を受けるように添えて、身体の中にくるようにします。帯にさす時は、左半身のまん中よりやや左よりに。帯の上端から3〜4センチ出るようにし、末広の先を少し身体の中央に傾けます。

かつて礼装の着こなしの際、下着を重ねて着たしきたりの名残りである比翼は、先例にならって白羽二重を用います。5ミリ幅ぐらいの分量が上品にみえるでしょう。



美しいきもの姿の要

留袖姿の美しさの決め手は、やはり豪華な絵模様が見える裾のラインです。やや裾つまりに着ると、もっとも美しくみえます。

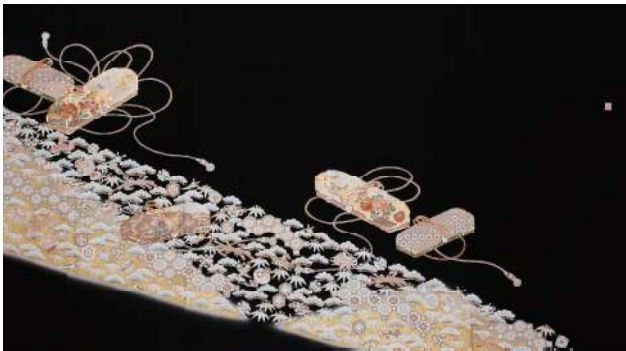
このシルエットを保つよう、必ず内股で歩くようにしましょう。洋服を着ている時よりもひざ頭が内側を向くようにすると足幅も自然と狭くなり、きものにふさわしい歩き方になります。



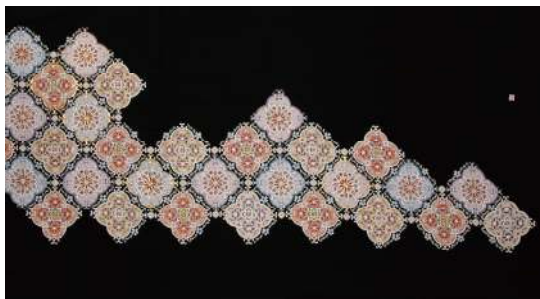
20-4619



20-4644



20-4645



20-4614



20-3511



20-4625



20-3519



20-4626



20-4411



20-4709



20-4500